

国語

昨年度と同様に、A問題・B問題ともに県、全国の平均正答率をやや下回りましたが、もう少しで全国平均正答率に並ぶ水準を保っています。活用力は改善傾向にあります。文章を正確に読み取る力を定着させることが課題です。

数学

昨年度まで、A問題が2年続けて全国平均正答率を上回り、B問題では全国と新潟県の平均正答率を下回りました。今年度は、A問題が全国平均正答率をわずかに下回り、B問題が全国平均正答率を下回りました。三角形の合同を利用した証明問題など、筋道を立てて説明する力、論証の力を付けることが課題です。

理科

理科は、全国平均正答率をわずかに下回りました。光の反射の規則性や神経系の働きなど物理・生物の領域の正答率が比較的高かったのに対し、化学・地学の領域に課題がみられました。

小学校、中学校ともに、前回（3年前）と比較して正答率が下がりました。

2 算数（数学）、理科に対する意識

単位：%

		小学校			中学校		
		市	県	全国	市	県	全国
算数（数学）の勉強が	好き	61.0	63.2	64.0	48.9	55.6	53.9
	大切だと思う	92.7	93.1	92.1	82.2	85.9	83.6
	内容はよくわかる	82.1	85.8	83.4	66.2	76.5	71.0
	役立つと思う	91.4	91.3	90.3	73.4	76.3	72.9
理科の勉強が	好き	84.9	86.3	83.5	57.3	61.7	62.9
	大切だと思う	86.3	88.3	85.4	70.5	73.0	70.6
	内容はよくわかる	89.8	92.2	89.4	63.8	72.8	70.0
	役立つと思う	71.9	75.2	72.9	56.7	59.0	55.7

今回の調査では、国語に変わって理科の調査が行われました。

理科は、平成27年度調査と比較し「内容はよくわかる」の割合が、小中学校ともに低下しました。一方で、中学校においては「役に立つ」の割合が若干増加しました。

算数・数学は、昨年度調査と比較し「大切」「内容はよくわかる」「役に立つ」の割合が小中学校ともに増加しました。しかし、「好き」の割合は小中学校ともに低下しました。

今後の課題

「好き」「大切」「わかる」「役立つ」と回答している児童・生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。課題として、教科学習を「好き」と捉えている児童・生徒の割合が、前回調査より低下していることがあげられます。また、読み違いによる誤答があることから文章を正確に読み取る力を身に付けることも課題です。

南魚沼市学習指導センターでは、今年度から理科指導部（理科センター）を新設し、理科指導の充実に努めています。主体的な学びにつながる課題や提示の工夫、さまざまな学習指導の工夫を通して、バランスのとれた学力が定着するよう指導に力を入れています。

